

【記者からの質問】

<原発関連>

佐賀新聞社／資源エネルギー庁は、5日の原子力規制委員会で運転期間の延長と、必要な措置を検討する方針を明らかにした。原発の運転延長についての見解を。

知事／原発は安全第一だと言い続けてきた。大切なのは、原子力委員会の厳正な審査。原子力規制委員会は、延長は政策判断で、それが規制委員会の基準に合うかどうかを厳正に判断すると考え方を示している。延長は、国がエネルギー計画の中で、位置づけも含め説明責任を果たすべき。県としては、規制委員会の厳正な審査を注視し、政策判断に引きずられていないか見守っていく。

佐賀新聞社／原発立地の自治体トップとして、国が具体的方針を検討する際、考慮してほしい点は？

知事／福島第一原発事故のとき、40年ルールを決め、例外で20年上乘せし60年とした。40年と60年の違いの科学的知見を詳しく説明してほしい。玄海原発は、まだ先の話だが、注視していく。

<有明海再生関連>

佐賀新聞社／国営諫早湾干拓事業をめぐり、野村農林水産大臣が佐賀・長崎両県への出張を調整している。伝えたいことは何か。

知事／有明海の再生は、国、関係県、市町、漁業者など関係者すべての願い。佐賀県の現状と考え方を説明し、有明海再生への強い思いを伝えたい。

新しい農林水産大臣が、定例行事のように毎回来佐する。実効性のある対策ができるよう、強く申し上げる。

<都道府県別魅力度ランキングについて>

佐賀新聞社／民間シンクタンクによる、2020年の都道府県別魅力度ランキングで、佐賀県は最下位だった。知事の受け止めと、最下位の要因分析があれば。

知事／特に意識していないし、分析もしていない。佐賀県は、本質的な価値を世界に向

けて打ち出し、前進していただく。

個人的には、下位の埼玉県・茨城県・佐賀県は、J1のホームタウンがあり、とても魅力的だと思う。

佐賀新聞社／魅力度ランキングをめぐり、群馬県知事は法的措置を検討。茨城県は、伸びしろナンバーワンだとキャンペーンを展開。報道も下位に注目が集まる。ランキングへの知事の考えを聞かせてほしい。

知事／私は否定的。佐賀県ほど素晴らしいところはない。県民も前を向いて進んでいるので心配していない。

佐賀新聞社／5月に発表された県民意識調査の結果では、生活の満足度が8割超。ランキング結果との乖離をどう考えるのか。

知事／魅力度ランキングというより認知度ランキングだと思う。佐賀県はリピーターが多い。佐賀県を知れば、好きになるし魅力ある県だとわかる。

佐賀新聞社／ランキングアップのための対応策や仕掛けを考える予定は？

知事／この調査に対しては、ない。世界に向けて本質的な素晴らしさを発信していく。

朝日新聞／佐賀県は、様々なコラボキャンペーンを続けている。この結果は、なかなか数字に出ない。効果に対する手応えを教えてほしい。

知事／ツイッターやブログでは若い人が中心であり、広い意味での認知度にはつながっていない。ただ、一つ一つ磨いていくと、ある段階から急に効果が出てくる。様々な施策は、国内外に向けて発信している。世界に普遍的に価値を提供できる佐賀県であることが早道と考えている。

朝日新聞／漠然とアピールしていくより、ゲームファン・料理関係など、絞った施策を多様な方面に展開し、横に広げていくということか。

知事／専門性の高い皆さんと取り組み、それぞれの分野が普遍的になっていくと、やがて一般の皆さんにも認知してもらえるタイミングがあるはず。それを楽しみに、現在は

施策に磨きをかけている。

一番大事なことは、県民が誇れる佐賀かどうか。魅力的なものにあふれた県にしておくことがポイントになる。

<新幹線西九州(長崎)ルート関連 その1>

朝日新聞／武雄温泉―新鳥栖間について、知事は九州全体のインフラを考えるべきだと投げかけていた。分かりやすく教えてほしい。

知事／今回の新幹線開業で、鹿島、太良地域は、乗換えの問題など、通学や通勤で利用する人々にとって利便性が悪くなった。

当初、新幹線は長崎県の意向を受け、長崎のためにやっていた。フリーゲージトレインで解決するはずだったが、国が技術的にできないと判断し、はしごを外された形。それを新幹線開業後は、佐賀がじゃましているような報道になり、傷ついている。

それでも、「幅広い協議」の中、フル新幹線をやるならば、先が見える形で踏み出さなくては、ダイヤや在来線の問題、地元の財政負担の問題が後回しになる。

簡単には解決しない問題だが、県民が納得できる未来の描ける案がほしい。しかし、これは、我々から打開する性質のものではないと毎回言っている。

解決への環境を整える努力はしていく。1つのポイントが、九州全体のインフラを考えるという発想。今までの議論の延長線にはないというのが私の考え。

<佐賀空港の自衛隊使用要請関連>

朝日新聞／オスプレイ関係では、県がオブザーバー的な立場で動いていた。今後、積極的に関与していくのか、それとも、あくまで両者をサポートする形を考えているのか。

知事／最近の世界情勢の状況を見ると、国防を大切にすべきだ。有明海再生も大事なこと。両立させるための議論が深まり、今が極めて重要な時期。私がお伺いして、お願いすることもあり得る。今後の調整を注視していく。

朝日新聞／知事が、漁協と話すということか。

知事／極めて大事な時期を迎えているという認識です。

朝日新聞／九州防衛局側が、漁師さんが大事にしていることを理解していないのではないか。その結果、話が進まないように見える。防衛局のノリ漁への理解度をどう見ているのか。

知事／お互いを理解するには、ある程度時間がかかる。防衛省が、私たちのノリ漁への思いを理解するには一定の時間が必要だし、漁業者が先祖代々から受け継いだものを守る気持ちもわかる。国防の話は大きな話で実感が湧かない部分を、国が守られてこそ私たちの営みが成り立つのだと説明してきた。さらに相互理解が進むよう、今が大事な時期だと認識している。

<和牛能力共進会について>

共同通信／和牛の能力共進会での佐賀県勢の結果をどう受け止めたのか。

知事／佐賀県は、これまで肥育中心だったので、共進会は苦手な分野。共進会で勝つための育て方をしていない。佐賀牛は、市場での人気があるので、今のままだもよいが、出るのであれば、共進会の肥育期間のルールに基づいた対策をするべきだと担当者には伝えた。

共同通信／共進会は、和牛の改良の結果を披露する場。今後の和牛改良への考えを。

知事／繁殖に力を入れようと、旧肥前町にブリーディングステーションを建設中。これが完成すると、繁殖や交配への知見が増してくる。これから、真の和牛王国となるよう目指したい。

共同通信／いろはファームを活用しながら？

知事／いろはファームに期待している。また、畜産試験場も精力的に取り組んでいく。

<SAGA アリーナについて>

NHK／SAGA アリーナのオープンを5月13日に決めた理由は？また、アリーナの活用方法への考えを教えてほしい。

知事／5月13日に決めた理由は、ゴールデンウィークでイベントを試行後、チェックと修正を重ねオープンを迎えたいと考えたから。

SAGA アリーナでコンサートを開催するのが目標だと言われるような、魅力的なアリーナになるよう努力をしたい。使い勝手のいい、演者と観客が一緒に盛り上げられる空間をつくるよう努力を重ねる。

<新幹線西九州(長崎)ルート関連 その2>

NHK/並行在来線の乗換えが問題になっている。JRが工夫し、短時間で乗換えられるようダイヤが組まれたのはよいこと。それが逆に、江北駅では跨線橋を渡りきる時間がなかったり、乗換えホームがわからず乗り過ごした、という声がある。

また、肥前浜駅は、乗換えホームは工夫されているが、乗換えの待ち時間が長い場合もあり、雨のときに荷物の多い高校生がかわいそうだ、という声も聞く。並行在来線の課題への改善要望を求める予定は？

知事/よく調べていただいて、ありがとうございます。まさに切実な問題だ。

これまで自治体は、JRに対し要望して終わり、その作戦を考えるのがJRという関係だった。自治体もやるべきことをするべきだ。市町からの意見を集約し、地方鉄道のあり方を含め、チームのような構成体で課題に取り組めればと考える。

長崎本線の施設は、県の所有になった。所有側と運行側の認識が乖離すると、犠牲になるのは住民。そんなことは、あってはいけない。協働して課題を解決しようとJRに提案する。